

# 精密検査方法について

胃	<p><b>胃内視鏡検査</b> 胃 X 線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検査で紛らわしい部位が見つければ、生検（組織を採取し、悪性かどうかを調べる検査を行う場合もあります）。</p> <p>* 検診で胃内視鏡検査を植えた場合、精密検査は、検診時に同時に行う生検や、胃内視鏡検査の再検査となります。</p>	
肺	<p><b>CT</b> X 線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。</p> <p><b>気管支鏡検査</b> 気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部位を直接挿入します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。</p>	
大腸	<p><b>全大腸内視鏡検査</b> 下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープなどがいないか調べます。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。大腸の奥まで観察することが困難な場合もあり、その場合は他の検査方法が用いられることがあります。</p> <p><b>内視鏡検査と大腸の X 線検査の併用法</b> 大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合には内視鏡がと置かない奥の大腸を X 線検査で調べます。大腸の X 線検査は、下剤で大腸を空にした後に、肛門からバリウムを注入し、空気で大腸を膨らませて大腸全体の X 線写真を色々な方面から撮影する検査です。</p>	
子宮頸	<p><b>コルポスコープ検査（またはHPV検査）</b> 細胞診で異常が発見されたらコルポスコープ検査で詳しく調べます。コルポスコープ（腔拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つければ、組織を一部採取して悪性かどうか診断します。また細胞診の結果によってはHPV検査（子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無）を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。</p>	
乳	<p><b>マンモグラフィの追加撮影</b> 疑わしい部位を多方面から撮影します。</p> <p><b>乳房の超音波検査</b> 超音波で疑わしい部位を詳しく観察します。</p> <p><b>細胞診、組織診</b> 疑わしい部位に針を刺して細部や組織を採取し悪性かどうか診断します。</p>	